

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

僕の未来

会津美里町立新鶴中学校

3年 五十嵐 優希

先日見ていたあるテレビ番組で興味深い内容のものがありません。その内容はコメディ的な要素が強かったのですが、内容は未来からやってきた若者2人が両手で1枚の大きな板を頭の上で支え、その上には3人の老人が乗っている、というものでした。未来からやってきた若者は、この時代では現役世代2人で1人の老人の生活を支えているが、未来では2人の現役世代で3人の老人を支えているというものでした。これを見ていて僕は、「もしこれが本当なら大変なことになるなあ。」と強く感じました。父も一緒に見ていたので聞いてみました。

「これってコントだからこんな風にやっているの？」

内心自分は作り話だと思っていました。しかし、父からの返ってきた答えは

「ほぼ事実だと思うよ。」

という言葉でした。これをきっかけに今まで触れることの無かった、「年金」や「税金」ということを考えるようになりました。そんな僕に父は続けてこんなことを話してきました。

「日本では、医者にかかっても、子供は無料の市町村があるし、大人は3割ぐらいお金を払えばいいけど、アメリカだと日本で10万円ぐらいの手術でも、100万円近くかかるし、歯の治療も保険が効かないので全額負担なんだって。」

という話をしてくれました。続けて、

「税金も無駄に使わないで、国民の役に立つように使ってくればなあ。」

と言っていました。

今までは「税金」とはどちらかというとマイナスなイメージを持つことが多かったのですが、実際に自分が知らなかったり、気付かなかったところで役に立っていることがたくさんあることを知りました。教科書や学校、道路や橋、数えればきりが無い程あります。

税の使い道を自分一人で決めることはできませんが、今の日本の社会、自分たちの今の生活、自分たちのこれからの生活に関わるとても大切なこととして「税金」というものを考え、「きっと誰かがうまく使ってくれるだろう。」などと人任せにせず、自分の未来と「税金」は繋がっていると考えたいと思います。